

産業建設常任委員会記録

平成28年8月5日

【開催日】 平成28年8月5日

【開催場所】 第1委員会室

【開会・散会時間】 午前10時～午後2時31分

【休憩時間】 午後0時～午後1時

【出席委員】

委員長	中村博行	副委員長	長谷川知司
委員	伊藤 實	委員	杉本保喜
委員	松尾数則	委員	山田伸幸

【欠席委員】

なし

【委員外出席議員等】

議長	尾山信義	副議長	三浦英統
----	------	-----	------

【執行部出席者】

産業振興部長	芳司修重	産業振興部次長兼農林水産課長	高橋敏明
商工労働課長	白石俊之	商工労働課課長補佐	山本修一
商工労働課主査兼商工労働係長	工藤 歩	観光課長	矢野 徹
観光課観光振興係長	安藤知恵		

【事務局出席者】

局長	中村 聡	庶務調査係主任主事	梅野貴裕
----	------	-----------	------

【審査事項】

- 1 観光振興について
- 2 山陽小野田市プレミアム付商品券及び地域通貨の今後について
- 3 山陽小野田市地域公共交通網形成計画について
- 4 その他

1 観光振興について

【主な質疑】

中村博行委員長 まずは幸福の鐘の場所と進捗状況についてお尋ねしたい。

矢野観光課長 幸福の鐘の状況については、現在設置場所を検討しているところである。日時計の両サイド、根元、いずれにしても夕日を含めたロケーションに最適な場所に設置するのが最も望ましいと考えている。ただし、鐘の鳴り響く音による近隣の方への騒音ということも考慮する必要がある、実際に鐘の大きさや響き加減をテストしながら最終的に設置する場所を決定したい。騒音が一番のネックになるので、鐘を実際にそれぞれの場所で鳴らして確認しながら適切に決定したい。設置後の効果については、より多くの人に来ていただけるよう的確な情報発信に努めるが、観光客増加がどのくらい見込めるかというところは図りかねる。

中村博行委員長 当初の場所は埠頭の先だったと思うが、それを再検討しなければならない状況になったということか。

矢野観光課長 ロケーションの問題である。何か所か候補としては考えているが、今のところ鐘の音の響き具合をテストする手段がないので、実際に鳴らしてみても響きと騒音をクリアできるところと場所との兼ね合いを考えながら決定したい。

杉本保喜委員 教会のような鐘を考えているのか。デザインを募集するのか。

矢野観光課長 シンプルな鐘を考えている。支柱はステンレス製でメッキを施したものとし、鐘自体はしんちゅう製に銀等のメッキを施したものを考えている。彫刻などは今のところ考えていない。

杉本保喜委員 幸福の鐘をどのようにPRし、観光ルートの中につなげていくのか。

矢野観光課長 焼野海岸にはガラス未来館、きらら交流館、オートキャンプ場、竜王山という魅力的な施設があるので、その施設と協議を重

ねることにより、ルート設定をしっかりとした上で情報発信に努めていきたい。

山田伸幸委員 焼野海岸はプロ写真家の方々が来られている。ウェディングの前撮り等もされているので、そのときに幸福の鐘が生きてくると思う。ただし、プロ写真家が選ばれるのは水辺なので、プロ写真家の方の御意見も是非聞いていただきたい。

矢野観光課長 十分検討したい。

芳司産業振興部長 もともと竜王山、焼野は観光振興ビジョンの重点エリアの一つとして上げている。今回の幸福の鐘の設置については、このエリアの集客、話題作りの一つとして充実を図っていこうというものである。幸福の鐘は平成25年度に観光懇話会を開催したときの提案の一つであり、今回やっとその予算化が図られた。近年、SNSやツイッター、フェイスブック等で風景が紹介されることにより、多くの方が来られているという事実もあるので、そういったことにつながればと思っている。夕日と合わせて撮るには海に潜らなければ写真撮影が難しいというポジションでもあったので、その辺は見直しているところである。ほかの自治体では鐘を設置したが、その音に対する住民からの苦情が殺到し、それを改良して鐘が響かないようにしたという事例もある。できるだけ音が鳴らない仕様にはなっていると思うが、実際にどのくらいの音ができるのかを確認した上で最終的な取付位置を確定していきたい。

伊藤實委員 これは3月の一般会計でも議論になった。すごく前向きではあるが、騒音という言葉を出してほしくない。3月のときに話題になったが鐘の鎖を事務所にもらいに行くというような発想はなくなったのか。

矢野観光課長 鐘の中にラバーを貼って余り響かなくする等により、できれば常時鳴らすひもというのは付けておきたいと思っている。

杉本保喜委員 一番気になったのは騒音から話が始まっているということ。その効果にウェートを置いて、住民の気に障らない環境を探す方向で検討する必要があると思う。

矢野観光課長 その効果やロケーションが最重要だと考えている。耳障りな音は、迷惑に感じる人にとっては騒音になるということも考えなければならない。鐘の中の加工については、例えばラバーの厚さを変える等をしながら常時鳴らせるというものにしたいと考えている。

伊藤實委員 シーズンは夏だが、現実的にいつ設置するのか。

矢野観光課長 設置については年内をめどに考えている。発注して作成するまでに一月半くらい日数が掛かると聞いている。作成後、2週間から3週間あれば設置できると聞いているので、年内の設置に向けて動きたい。デザインについては、ハート型のオブジェの真ん中に鐘がつるしてあるといった形状を考えている。

伊藤實委員 ガラスの鐘は検討していないのか。

芳司産業振興部長 海に突き出たところなので、耐久性を考えるとガラスを素材にすることは難しい。設置時期がずれたことについては、大変申し訳なく思っている。せっかく付けていただいた予算を効果的に使うために、設置位置やひもなどを精査した上で設置するよう指示させていただいた。長年に渡って皆さんに愛されるようなオブジェにしていきたい。

山田伸幸委員 ほかに設置されているところの視察等はしているのか。

安藤観光振興係長 住民からの苦情によって鐘を加工したところがあったので、実際にどの程度鐘が鳴り響くのかを聞いてきた。

山田伸幸委員 阿武町の道の駅には行ったのか。

安藤観光振興係長 阿武町の道の駅には何度も足を運んでいる。阿武町の道の駅の場合は奥の入り込んだところに鐘がある。近くに民家はないので、山陽小野田市とは設置エリアが異なっていた。

山田伸幸委員 阿武町の道の駅は夕方ぐらいに列ができています。そういう時間帯に見ているのか。

安藤観光振興係長 夏に行列を見ている。

長谷川知司副委員長 検討しなければならないことが分かっているのか。

どのような鐘の形にするかは位置が決まってからになると思う。検討メンバーはどのような構成になっているのか。

矢野観光課長 今では部内で検討している。その検討結果をもって地元やきさら交流館、ガラス未来館等に話をしたい。突堤のところは河川敷になるので河川の許可を取らなければならない。その辺の事前協議は終えている。これからの順序については、まず鐘を発注して、できた鐘を鳴らして、加工を施した上で設置するということになるかと思う。その中で設置場所の検討ということになるかと思う。

長谷川知司副委員長 例えば今後突堤の修理や作業をするために工事車両が突堤の先まで行くことも含めて設置場所を考える必要がある。今後どのように進められるかきちんと工程表を作り、担当の技術系の職員にも聞いて作業を進められなければならない。

矢野観光課長 土木関係の方にも知恵を借りている。形状としてはある程度できているが、より一層連携をとってその形状についても協議しながら設置の足場や実際に入ったときの工事の工程、突堤への工事車両の搬入等も指導を仰ぎながら設置の準備を進めてまいりたい。

山田伸幸委員 私は最初から突堤を設置場所にすることに疑問を出している。カメラマンとして見れば撮れるような大きさではない。写真を撮るスペースもない。また、以前の台風時には石が持ち上がった堤防なので、どういうデザインなのかまだ見させていただいていないが、そういうところに設置して大丈夫なのか。

矢野観光課長 県の河川占用申請で強度計算等々をクリアした土台や形状ということで作成を予定している。その図案が必要であれば御提示したい。

中村博行委員長 お願いしたい。

芳司産業振興部長 後ほどデザインをお配りさせていただく。デザインや形状についてはほぼ決まっているが、一番検討しなければならないのは設置位置である。実際に現地で検証しながらどれほどの影響があるのかを確認した上で最終的に決めていきたい。

伊藤實委員 今回の鐘自体の予算額は。

矢野観光課長 300万円。

伊藤實委員 設置まで含めてか。

矢野観光課長 設置費用を含めてのものである。

伊藤實委員 本体の概算は。

矢野観光課長 見積りを頂いているので、図面と併せて御用意したい。

伊藤實委員 ガラスの鐘を市内で発注して作ればすごい発信力になる。今は強化ガラスとかもあるので、まだ間に合うのであれば是非検討していただきたい。

芳司産業振興部長 場所的に先端なので潮風だけではなく、台風的时候には潮もかぶるといった状況が考えられる。本当に耐え得るものがこの予算の中でできるのかという確認はさせていただきたい。

伊藤實委員 山陽小野田市はガラスのまちで売り出そうとしているので、その辺は是非調べてほしい。

杉本保喜委員 騒音測定はどのような形でやられる予定なのか。

矢野観光課長 実際に鳴らしてみても、耳で確認する。それから、環境課にデシベル計があったと記憶しているので、それを借りてデシベルの測定をしようと考えている。

杉本保喜委員 冬と夏では違いがあり、音も耳障りな音とそうでない音がある。デシベル計をどこに持っていかか大きな問題である。季節や音の種類、海風、山風等も想定しなければならず、数値的に問題なくても地域の人が納得しない可能性もあるので慎重にやっていただきたい。

中村博行委員長 次に、江汐公園について。宇部的时候公園がいろいろと催しをされて話題になっている。江汐公園は指定管理との関係もあると思うが、活用について今後どのような具体策を持っているのか。

矢野観光課長 江汐公園は観光振興ビジョンの基本戦略、観光資源の魅力向上と利活用の重点エリアの一つとして設定している。江汐公園は四季折々の植栽と多くの野鳥が見られ、遊具施設もあることから数多くの誘客が図れる施設だと捉えている。観光課としてはフェイスブックやホームページ、それから近隣の旅関係の情報誌やラジオ、テレビ等々に情報を提供しながら誘客を図っているところである。

江汐公園は広大な敷地を有しているので、その特性を生かしたイベントを考えていきたい。公園整備については、指定管理者へ管理を委託している。委託の仕様の中には交流人口の増加に向けた取組も含まれているので、完全に委託していると言いながらも設置者としての責任もあることから都市計画課が必要に応じて指定管理者と協議したり、指示をしたりしている。こういった施策、公園整備等については都市計画課と協議をしながら、観光課としてはいろいろな提案をして整備の協議等々をしていく必要があると考えている。また、ときわ公園とよく比較されるが、ときわ公園は動物園、遊園地ということで多少形態が違うのではないかと感じている。江汐公園ならではの特性を生かした観光の情報発信、あるいはイベント等の開催整備を進めていく必要があると考えている。

中村博行委員長 指定管理とは別に行政のほうから指導や別のビジョン等を提示する考えはあるのか。イベント等と言われたが、具体的なものがその中に盛り込まれているのか。

矢野観光課長 今の指定管理の中で具体的なものは聞いていない。実際に予算が付いてからの整備という形にはなるとは思うが、整備計画に対しての企画等については庁内の連携会議等で意見交換をしながら、その辺の協議、検討、企画立案を進めていく必要があると考えている。

中村博行委員長 企画というのは動物園とか関係なく参考になるのではないか。市内各地でマラソン大会等が開催されているので、それを統合した大きな大会を江汐公園で開催するなど具体的なイベントについても検討されるべきではないかと思う。

矢野観光課長 おっしゃられるとおりである。マラソン企画、マラソン大会等々、何かしたいという気持ちは持っている。できない理由ではなく、できる理由を探しながら検討してまいりたい。

伊藤實委員 江汐公園をどのように活用しようと考えているのか。

芳司産業振興部長 あくまでも縦割り行政ではないということを御理解いただいた上で、江汐公園については、基本的にその整備や活用も含

めて都市計画課が担当しているので、都市計画課が検討すべき内容だと考えている。ただし、通常の管理運営を指定管理で出しているが民間事業者のほうでもいろいろな取組をしていきたいという意向を確認しているので、それが具体的に何なのかということを担当のほうでしっかり確認をすべきだと思っている。庁内の連携会議があると聞いているので、そういった中で協議を進めていきたいと考えている。

伊藤實委員 まずは江汐公園をきれいな公園にするというのが一番早いのではないかと。そこが指定管理者との兼ね合いだと思う。イベントも大事だが、まずは公園を公園らしくしてほしい。

芳司産業振興部長 山なので、奥に行けば行くほど不安があるという声も聞く。安心感を持たせた上での四季を通じた風景、憩える公園というのがベースになると考えているので、そういったことも併せて観光から担当課にしっかり提案をしながらより良い形にしていきたい。

山田伸幸委員 実際にときわ公園は年中いろいろなイベントを打ち出している。都市計画課が主管課かもしれないが、観光ということで横断的な実行委員会を作ってそこにお金が集まるような工夫をしていかなければ、四季折々の花が楽しめるということだけで終わっている。是非庁内にそういう部署を作っているとチャレンジをしていただきたい。

芳司産業振興部長 部署というのは難しいと思うが、少なくとも観光のほうで重点エリアを幾つか示させていただいている。その中の大きな一つということで、例えば江汐公園の活用検討プロジェクトといったプロジェクトチームを庁内で設置し、関係課が集まって江汐公園の活用、整備等を検討することは可能だと考えているので、そちらのほうも庁内で相談させていただきたい。

杉本保喜委員 ボート場の浮き桟橋が傾いた状態で、裏に行くとボートが投げ捨てられた状態である。観光の立場からどのように解決をするのか。

矢野観光課長 おっしゃられるとおりに見苦しい状況であり、改修等をして

いく必要があると思う。都市計画課にその辺はしっかりと申し述べたい。

杉本保喜委員　そういう言葉が縦割りを感ずる。観光課と都市計画課とが一体となって予算化をするような努力が必要だと思う。今の環境の中で何ができるかということを実現化する必要があると思う。アクションプランを作った以上はこれをたたき台にして、そういう各課の連携プレイをやらなければ駄目だと思う。

芳司産業振興部長　例えば竜王山は山野草などの二次的な自然というものがあるので、人の手をこれ以上加えないほうがより楽しんでいただけるのではないかと考えている。一方で江汐公園についてはもともと山ということもあり、ある程度人が切り開いて公園化ができるフィールドだと捉えている。長年に渡っていろいろな意見もありながら、なかなか具体的な形になっていないのが実情であろうと私も考えている。このアクションプランの中でいろいろな担当課、関係課が集まって連携をしていくというのは当然のことであるが、特に江汐公園の活用については、プロジェクト化を進めて現状の問題点、例えば見苦しい部分があるといったことももう一度整理をして、今後どのようにすべきなのかというビジョンをしっかりとまとめていく必要があるのではないかと考えている。そういったことも含めてこのプロジェクトの設置ができるのかどうかという辺りの関係課との相談をさせていただきたい。

松尾数則委員　宇部との比較が随分出ているが、一番足りないものはシティセールス力である。こちらにはそういった部や課がないので観光についてはどうしても宇部について行けない。その辺の溝を埋めるためには、いろいろな部や課が一緒になって考えていかなければいけないと思う。

芳司産業振興部長　宇部市であれば広報シティセールス部になると思うが、私も昨年度担当部長にいろいろなお話をお伺いした。実際にシティセールス課ができてまだ3年か4年だったと思うが、それでも市内の情報の一元化に苦慮されておられる状況であり、それを何とかし

ていこうという意気込みが非常に感じられた。本市においても効果的な情報の発信が十分できていないという現状の中で何とか打開をしていきたいと考えている。市役所の中でもいろいろなカテゴリーの情報があるので、その情報をどういう形で一元管理していくのが一番大事になってくると思っている。当然広報とも一緒にやっていかなければならない作業なので、特に観光であれば市外、県外の人たちに対してどういう形で情報を届けるのが一番効果的なのかを発信のツールも含めてしっかり詰めていきたいと考えている。これは何年も掛けてやるものではないと思っているので、何とか今年度をめどにその情報の一元管理を進めたい。徹底するには何年か掛かるかもしれないが、少なくともそういう形をしっかりとる中で発信力を高めていきたいと考えている。

松尾数則委員 江汐公園の活用についてはどのように考えているのか。

芳司産業振興部長 まだプロジェクトに至っていないので、あくまでも個人的な見解にはなるかもしれないが、江汐公園はまだ原石の状態だと考えている。それをどう磨いていくのか、四季を通じて楽しんでもいただける自然公園というテーマの中で具体的に何をすべきなのかをしっかりと整理する必要があると思っている。そのような協議の場を持つ中でそれぞれの意見をしっかりと出し合って方向性を出していきたいと考えている。

松尾数則委員 宇部に置いていかれているというのは事業である。指定管理者の仕事になるのかもしれないが、そういった事業について何か考えがあるのか。

芳司産業振興部長 話題作りになるようなイベントも必要だと思うし、基本的なベースは自然を生かした風景を提供することだろうと考えている。その中で何ができるのかということについては、そういったプロジェクトや協議の場でしっかりと出しきっていきたいと考えている。

杉本保喜委員 協議の場に江汐公園の指定管理者からの意見を吸い上げるシステムを作っているのか。

芳司産業振興部長 基本的には毎月の報告や年度が終わった段階で、1年間を通じての検証を担当課のほうがヒアリングを含めてしっかりやるという仕組みだったと記憶している。

杉本保喜委員 それは今までの形。今回アクションプランができたので江汐公園を活用しようと一歩踏み込んでいる。観光課は江汐公園の現状を把握しなくてはいけない。江汐公園の指定管理者のチームの中には非常に勉強された自然観察員がいる。そういう現場の意見をしっかりと吸い上げて参考にする必要があると思う。

芳司産業振興部長 指定管理者からのヒアリング等については、設置者である市の担当している部署がしっかりやるという考え方であるが、それを紹介していく立場の観光課としては当然関わっていくべきだと思っている。ただし、このアクションプラン自体が3月にできたばかりで今年度からのスタートになるので、いきなり勝手に指定管理者のほうに行くのは、組織としてのルール違反になる。そういったことも含めて、どういう形でヒアリングや意見交換会をするのかという辺りは担当課も交えた上で決めていく必要があると思っている。それは先ほどから申しているプロジェクトの設置も含めて、その仕組み、形を整えた上でやっていきたい。

杉本保喜委員 それぞれの持ち場を結集して、初めて江汐公園の活用というのがなされると思う。観光のポジションで担当課に意見をすることは問題ないと思う。

芳司産業振興部長 基本的に指定管理者制度というのは民間の知恵やノウハウを生かした取組でやっていくというのが大きな趣旨なので、官民一体となった取組だと考えている。だから指定管理者に全て丸投げということではなく、当然私どものほうもそういったものに対するしっかりとした考え方を持って、その目的達成のために必要に応じては指定管理者に対して指示をしていくということも必要だと思っている。決して縦割りではなく、直接担当しているところに対して観光という立場で必要な提案や意見をしっかりと出して一緒に考えていく場を持ちながらやっていくことは非常に重要だと考えている。

中村博行委員長 次に、今年度の観光に対する具体的なスケジュール、計画等があれば御答弁願いたい。

矢野観光課長 今年度の観光課のスケジュールとしては、実施計画上の事業としてそれがアクションプランのどこに当てはまるかというところでの話をさせていただきたい。まず実施計画上は観光交流資源整備事業ということで、年内に幸福の鐘の設置を考えている。これはアクションプランの基本戦略1、観光資源の魅力向上と利活用に当てはまる。それから観光課の予算としては焼野海岸、且の皿山への観光案内板の設置を予定している。これはアクションプランの基本戦略3、推進体制の向上とホスピタリティの向上に当てはまる。このほか外国人観光客の誘致のために下関にクルーズ船が数多く来ている。それから11月からは宇部空港に韓国からのチャーター便が周航することになっているので、そういったところに向けてパンフレットの配布等々、山陽小野田市というものをどんどんアピールしていきたい。観光客だけではなく、ガイドの方に対してもPRしてまいりたい。また、産業観光バスツアーについても募集を開始したのについてはおおむね順調な申込みをいただいているところで、こちらにも継続していきたいと思っている。山陽小野田市のツアーとしては7種類8回を予定している。こちらは基本戦略4、広域連携の推進になると思う。このほかにも来年度からのおもてなしサポーター事業の準備等々、実施計画、アクションプランとの整合をとりながら事業を進めている。

杉本保喜委員 おもてなしサポーターをどのように募集し、何人登録する予定なのか。

安藤観光振興係長 おもてなしサポーターについては企画を練っている状態である。例えばお菓子屋や事業者、観光客が立ち寄られるような観光施設などの従業員を対象としたミニ観光案内所のようなものが市内にたくさん設置できればと考えており、来年度からおもてなしサポーター事業の登録をする予定にしている。また、何名という具体的な数字はないが、基本的には観光協会と連携して協会会員の観

光関係団体の事業者若しくは募集で手を挙げられた事業者、宿泊先等、実際に観光客が多く訪れている団体向きにこのようなサポーターの登録制度を行っていききたい。

杉本保喜委員 観光ガイド研修会は、どのように計画されているのか。

安藤観光振興係長 観光ガイドの研修会については、今年度も山陽小野田語り部の会ボランティア団体と連携をして計画を練っている。私の見解ではあるが、おもてなしサポーターの登録の中にそのような研修会を受けていただいた方も登録していただけるような制度にしていききたい。実際に語り部の会の方に外部のお客様のガイドをしていただいているが、高度なスキルを求められるので一、二回の研修で簡単にガイドができるのかという問題点もいろいろと出てくる。そういったところはしっかりガイド団体と検討を重ねながら今後どのように活躍していただけるかというところを検討していききたい。

杉本保喜委員 観光ボランティアガイドは語り部の会が産業バスツアーを担当して頑張っているが、2年掛けてようやく今回一人デビューした。前向きな人でもそれを勉強して皆に語るためには知識と現場を見なければいけないので、言われたようなレベルで観光ガイド研修会をやると10人受けても一人もガイドになる人はいないと思う。1年掛けて7回くらい研修した後、4月にデビューするという明確なものにしなければならない。私の経験から、ふるさと塾を4年やってようやく自分たちで計画してやるものができた。先進地をいろいろと見てきたが、年間30万から40万くらい予算化して養成講座をバックアップしている。

安藤観光振興係長 ガイド研修会については市からの補助金の中で、観光協会が主宰をしている。協会の予算をとられている。

杉本保喜委員 協会に丸投げというのはよくない。それだけの補填をしているのか。ボランティアガイドを作っている先進地の宗像市は3年間で30万ずつ払いしっかり勉強して3年後は自立するように最初から長期計画を作っている。大宰府市も5年計画でNPO団体になっている。やはり立ち上がりは市がやらなければいけない。それを

サポートするのが観光協会である。

矢野観光課長 この4月に来て不勉強なもので、よその研修会等に参加したことがない。どのような形で実施しているかを視察したり、お話を伺ったりした上で、来年、再来年以降、山陽小野田市でのガイドの育成について勉強させていただきたい。

杉本保喜委員 市民の中でボランティアガイドを自分たちで計画してやれる力を持っている人が60名近くいる。そういう人たちに今、声掛けしなければ集まってくれない。このことを強く言うておく。

山田伸幸委員 長門市では長門市をアピールするためにいろいろな方がネットに群がっており、それぞれが一緒に情報発信をされている。市が出したものをいろいろな人がシェアしてくれる関係を作っていく必要があると思うが、観光協会若しくは観光課が管理している観光情報のページがどのように運用されているのか。

安藤観光振興係長 市であれば市役所のホームページ、観光協会であればフェイスブックとホームページで情報発信している。一番効果的なのは、観光協会のフェイスブックをシェアしていただくことである。

山田伸幸委員 シェアの数。

安藤観光振興係長 最近の記事であれば、ひまわり畑のシェアが9件、リーチが4,500件くらいである。

杉本保喜委員 ビジターセンターの整備検討は具体的に考えているのか。

矢野観光課長 コンサルティングを受けてからの検討になるが、既存の施設でそれになり得る場所があるのかということも検討していかなければならないので、30年度から検討ということにしている。

杉本保喜委員 コンサル会社に頼むということか。

矢野観光課長 県の観光連盟でそういったコンサル業務等々の実施を検討している。その中で情報等をいただければと考えている。

杉本保喜委員 コンサルに頼むと地域性を余り分かってきていないので、オーソドックスなものしか出てこない。おもてなしサポーターの募集を従業員の人たちに頼むというようなことができるのであれば、客層のアンケートとってもらおうということも可能だと思う。語り部

の会などの人たちは、体験的なものからどこにビジターセンターを設ければいいのかがある程度分かるので、コンサルよりもビジターセンターの設置そのものに金を掛けていくほうが有効だと思う。

矢野観光課長 動態の調査についてはいろいろな方法があると思う。県の連盟やそういった事業者に対してのアンケート等々いろいろなものを考えながら傾向を調査したいと考えている。

杉本保喜委員 現状ではビジターセンターが全くない。厚狭駅や小野田駅、サンパーク等どこがいいのかというアンケートをとれば、ある程度絞れるのではないか。そしてビジターセンターの場所をホームページで知らせればコンサルは要らないと思う。

芳司産業振興部長 市内で人が多く集まるようなところを中心にビジターセンター設置の検討が必要だと考えている。例えば宿泊施設や物産販売店等にも協力をいただいて観光情報が提供できるような拠点的なものを幾つか設置していきたいと考えている。

杉本保喜委員 30年度から検討協議となっているが、私は29年度に試行すべきだと思う。

芳司産業振興部長 前倒しは十分あり得ると考えている。

山田伸幸委員 W i - F i 環境については、アクションプランに検討整備ということで盛り込まれているが、その進捗状況は。

矢野観光課長 設置場所については大きな観光拠点ということで江汐公園、焼野海岸、竜王山を考えている。この事業については来年度以降の予算へ反映できるように実施計画、予算要求等をしていきたいと考えている。

山田伸幸委員 スポット的な配置ということか。

矢野観光課長 スポット的なものになると思う。例えば商店街一体というようなことは考えていない。

山田伸幸委員 環境がきちんと整えば、観光案内もよりスムーズに出せると思う。毎日情報を更新して、いろいろなスポットに人を誘導できるようにすることがW i - F i 化とともに必要になってくると思うが、今の体制でそれができるのか。

矢野観光課長 観光課は3名の職員であり、情報発信はできる限りの範囲でということになる。それがまだ足りないということであれば、なお一層努力する必要があると思う。何が人の琴線に触れるかは分からないので、ささいなことでも上げられるときに上げて、何かしら触れていただければと思っている。次に、先ほどの幸福の鐘の形状については、幅と高さが1 m 7 0 c mのハート型の中央に直径が2 5 c mの鐘がつるされているものになる。土台の支柱があるので、地面からだの高さは1 m 8 0 から8 5 c mくらいの高さになるのではないかと考えている。モニュメントの政策費用については鐘を含めて約1 7 0 万円、設置費諸経費等を入れて3 0 0 万円という予算計上としている。

杉本保喜委員 このハート型の材料は。

矢野観光課長 材料は全てステンレスで直径が6 0 . 5 m m。ハート型になっており、鐘はしんちゅう製なのでプラチナ箔を貼って、一体がシルバーという色になる。

2 山陽小野田市プレミアム付商品券及び地域通貨の今後について

【議事の概要】

白石商工労働課長 プレミアム付商品券の検証結果が市外業者であった理由について確認した。この分析業務については商品券の使用期限である1月15日以降にアンケート調査の回答の入力集計並びに内容の分析と報告書の作成ということで委託をした。当然、委託先については市内業者優先という考え方はあったが、市の登録業者で市内に調査分析を主業務とする事業者が存在しなかった。期限も短かったこともあり、他自治体でも実績のある大村印刷に依頼したという経緯である。委託については、実施主体である協議会が発注したものであるが、市商工労働課は指導する立場なので、今後はよく考えてまいりたい。

【主な質疑】

伊藤實委員 業者がないという言い方だが、実際は大村印刷も自社では

なく外注しているのではないか。

白石商工労働課長　そこまでは把握していない。

伊藤實委員　自分のところではできなくても関連の企業との連携の中であることは可能である。登録をしていないから案内がいかないというのもどうかと思う。今後は極力地元を使うようにしてほしい。

山田伸幸委員　担当課としての評価はどうだったのか。他自治体では第2弾、第3弾を実施しているところもある。

白石商工労働課長　商業振興という観点では成果があったと思っている。市内の事業所を見直していただく機会にもなったのではないか。今回の実施に伴い、改善点等も見えてきたので、次回検討する機会には生かしていきたい。

芳司産業振興部長　昨年度実施したプレミアム付商品券事業については、基本的に消費喚起事業という形で国から10分の10を受けての取組である。この商品券を出したことによって、全体の消費喚起効果として1億2,500万の推計が上がっているので、消費喚起については一定の成果があったと認識をしている。

山田伸幸委員　一定の成果はあったのに、次はやらないという結論なのか。

白石商工労働課長　スケジュール的に難しかったということもある。

芳司産業振興部長　商品券発行には明確な目的が必要であり、財源の問題もある。商工会議所とも様々な商業振興策を協議、検討しているが、現段階で商品券発行という結論には至っていない。

伊藤實委員　資金が市内で循環することは内需拡大の大きな政策だと思うので、早急に検討をしていただきたい。

芳司産業振興部長　基本的に市民の購買力により市内で循環させるというのが理想だと考えている。商圈も考えなければならない。生活圈、購買圏は単市だけではないので、その辺りも含めて考えていく必要があると思っている。

中村博行委員長　本市の地域通貨は介護ボランティアに特化しているが、今後新たなものを設けるのか。

芳司産業振興部長　現在の地域通貨制度導入事業は、あくまでも従前の介

護支援ボランティア活動の転換交付が主なものになっているので、これ以上流通量を増やすのは難しい。地域通貨については継続して研究していく。

山田伸幸委員 地域通貨には使うメリットが必要である。秩父市はコインで地域通貨を発行しており、それが地域のステータスになっていると感じた。

中村博行委員長 地域通貨については前任の部長も可児市を訪問されたと聞いている。

芳司産業振興部長 可児市の地域通貨制度は、社会貢献システムとしての構築であると捉えている。秩父市などの情報も取り入れながら内部の検討、研究を進めていきたい。

3 山陽小野田市地域公共交通網形成計画について

【議事の概要】

資料に沿って説明があった。

【主な質疑】

中村博行委員長 今回の資料は山陽小野田市地域公共交通網形成計画からの抜粋ということだが、理科大、サンパーク、小野田駅をどのように連携させていくつもりなのか。

白石商工労働課長 このたびの山陽小野田市地域公共交通網形成計画については、生活路線の維持を中心に考えている。山口東京理科大学についても、公立化し学生数も増えるので重大な課題だと思っている。現在は学校からスクールバスが小野田駅間と宇部新川駅間で、午前中に大学へ向かう便が2便、午後には大学から駅へ向かう便が2便走っている。そのほか船鉄バスが上り下りで10便ほどあり、JR雀田駅にも鉄道が10便走っている。今後は学校等の意見等を聞きながら学生生活に合ったダイヤ改正からやっていきたい。

山田伸幸委員 大学生の利用状況は調査しているのか。

白石商工労働課長 計画の14ページに大学からいただいたデータを載せている。52%が徒歩または自転車での通学、30%が自動車やバ

イク、11%が電車、7%がバスだと聞いている。バスの種類については把握していない。

杉本保喜委員 山陽本線と小野田線との結節が悪いからスクールバスを走らせていると聞いている。資料8ページでは今年度中に交通結節点や乗継拠点の整備の検討を行い、平成29年度から実施期間となっている。この年度計画の中でどのように分析して具体化していくのか。

白石商工労働課長 理科大のバスについては、一例として小野田駅から山口東京理科大学間のスクールバスが8時30分、船鉄バスが8時16分、9時代についてはスクールバスが55分、船鉄バスが54分ということで、かなり近い時間で走っている。スクールバスが接続に考慮した時間かどうかということは勉強をさせていただきたい。

杉本保喜委員 生活路線で賄えるのであればスクールバスの必要性がなくなる。その辺も含めて結節点を検討していく必要があると思う。

白石商工労働課長 スクールバスについては理科大を含めて今後考えていく重大な課題だと思っている。

杉本保喜委員 今後ではなく、具体化の検討をする段階ではないか。

芳司産業振興部長 あくまでもここでお示しをしているのは行政年度であるが、平成29年度以降は時間の変更等を考えていく必要があると思っている。大学については昨年度大学に市が示した中期目標、6年間の中期計画、実施計画、年次計画等の中で学生生活の支援ということで上がってきていると思う。山口東京理科大学の活用は市を上げての大きなテーマでもあるので、大学と一緒に考えていく必要があると思っている。

山田伸幸委員 学生の居住場所、通学方法、生活圏をもっと細かく調査する必要があると思う。

芳司産業振興部長 この4月からの公立化により全庁的な体制ということになっているが、今の段階ではまだ具体的に進んでいない。学生生活の実態調査等は、あくまでも大学の学生課等を通して行われると考えているが、アルバイトや学業関係等も含めてどこまで把握され

ているのかということは確認できていない。第二次総合計画の中で大学の位置付けがもう少し明確になると思うので、企画課のほうでも理科大の活用について検討されるのではないかと考えている。

伊藤實委員 基本的には使い勝手が悪いから利用していないということ。

市として戦略的に交通網を考えていかなければならない。例えばタクシーの業界を使って、9人乗りを30分に一本ずつ、右回り、左回りで巡回すれば待ち時間が短縮される。

芳司産業振興部長 今回の交通網形成計画は実態把握が半分くらいを占めている。地方については自家用車での移動が中心であり、特にこの10年は高齢女性の免許保有率が高まってきている。交通弱者に対する移動手段の確保は最低限やらなければならない。目的地を明確にして、交通弱者を中心とした使いやすい交通路線の策定をしていきたい。あわせて、バス路線と時刻表の周知が不足しているのではないかと思うので、使いやすくて分かりやすいものも作成していこうと考えている。平成21年3月の交通総合連携計画から状況も変化しているので、今後当面10年間ぐらいの交通体系を商工の中で内部検討しているが、いろいろなシミュレーションもしているので1年から2年ぐらい掛かる可能性はある。その間に交通会議等々もあるので、民間の事業者、バス会社とも意見交換しながら、より現実的な施策となるような協議を進めていきたい。

伊藤實委員 私は逆に免許を戻す高齢者が増えてくると思う。事故が多くなっているので、生活しやすい環境を整備しなければならない。山口東京理科大学の件は2年、3年待つような状況ではない。サンパーク行きの4便が今年の夏ごろになくなると聞いたが、本当なのか。

山本商工労働課課長補佐 サンデンバスが下関方面から宇部方面までバスを運行されているが、そのうちのサンパークに入る2便が廃止になると聞いている。埴生方面から小野田市街地への便は貴重な便であるため、是非存続してほしいと申し上げたが、事業所としても難しいと聞いている。今後そのようなことがないように引き続き市のほうから改めてお願いしたい。

伊藤實委員 どういうお願いをしているのか。

白石商工労働課長 担当者のほうにもお願いしているし、宇部市とも連携を取りながらお願いをした。現在、市長名で要望書を出すような形で進めている。

杉本保喜委員 サンパーク行きが廃止になる理由は聞いたのか。

白石商工労働課長 第一に運転手の確保が難しいということを知っている。

杉本保喜委員 それは向こうの事情で、利用者が少ないことだろうと考える。バス停別の乗降者数を見たときに埴生地域は150人くらいあるのに対して、刈屋付近は30人くらいである。この理由は何か。

白石商工労働課長 埴生地区については交通の結節点、乗継拠点という位置付けで考えており、乗り継ぎの関係で多いのではないかと知っている。刈屋等については便数の関係だと思う。

杉本保喜委員 計画の7番目に地域が主体となった公共交通に関する取組の検討とある。せつかくここまで分析をされているのであれば、早急に具体的な検討を進める必要があると思う。

白石商工労働課長 他市町のデマンド交通等で成功したところは地域が主体となっている。例えば地元自治会やNPOを作られて運営等がされているところもある。これから勉強していきたい。

杉本保喜委員 そのような土壌にしっかりと種をまいていますか。

白石商工労働課長 例えば「ふるさと」など山陽小野田市にある団体でも可能ではないかと思っている。

杉本保喜委員 そういう土壌がないのに地域の中でタクシーを作るとするのは非常に難しいと思う。

伊藤實委員 民間は収益が出ないから切るのであって、もうかるところは絶対に廃止しない。業者の都合になってはいけない。市民が利用しやすいような体系にすることを真剣に考えなければならない。

芳司産業振興部長 おっしゃるとおりであるが、1、2か月先にはならないということを御理解いただきたい。基本的には短い出発地から目的地までを積み重ねて、都市計の地図にいろいろなデータを落とし込む作業を始めている。また、必要な路線に対する結節点の位置付

けを整理していきたいと思っている。企画課とも密に連携をとりながら人口集積地をつなぐ路線を考えていく必要があると思っている。

山田伸幸委員　ゾーンバスというのがこのたびの計画では消えてしまった。

先日は結節点を中心とした放射線状のバス路線化ということをおっしゃっていたが、その後の検討状況を教えていただきたい。

芳司産業振興部長　旧小野田地区に関しては南北に縦長であるため、循環すると中央部分が重なる。厚狭駅から埴生までは距離があり時間も要するので、単純に放射型、ゾーン型という形での整理ができない。それぞれの結節点、埴生、厚狭、小野田駅辺りをもう一度再設定しなおしてそれをどのようにつないでいくのかということの一つ一つ積み上げた中で方向性を出していきたい。

松尾数則委員　私には山陽小野田市の交通網の先が一つも見えない。

芳司産業振興部長　生活路線なので、生活を維持するために必要な路線を中心とした分かりやすく利用しやすい公共交通という形で進めていきたい。まずはこの1年である程度まとめていきたい。

松尾数則委員　時刻表にJRが入っていない。その辺のところも少し考えてほしい。

白石商工労働課長　共同時刻表については宇部市交通局が中心になって作成されている。このたびは全バス停の時間、路線図も載せて、サイズも少し大きくするというので作業を進められている。

松尾数則委員　JRはどうするのか。

白石商工労働課長　今回の分で一つの冊子に載せるというのは難しいと思う。

伊藤實委員　山口東京理科大学のほうも公共交通網については教授がいろいろと研究されているが、その辺の連携は今もやっているのか。

白石商工労働課長　伊藤先生が本学のほうに替わられて、今は井上教授が後を引き継いでおり、先日話をした。

杉本保喜委員　いとね号、ねたろう号の路線の在り方が合併前と少しも変わっていないのではないか。

白石商工労働課長　ほとんど同じではあるが、津布田方面に延伸をしてい

る。

杉本保喜委員 いとね号、ねたろう号の終点がいまだに無くなった中央病院となっている。結節点や放射線状にどのように組み込むつもりなのか。

芳司産業振興部長 資料6ページに乗車密度、収益率等との関係の一覧を載せているが、ねたろう号といとね号は乗車密度も低いという状況である。路線や結节点的な位置付けは全て今回見直しをしていきたいと考えている。

山田伸幸委員 ねたろう号やいとね号を小野田方面に乗り入れるということも含めて見直すということなのか。

芳司産業振興部長 今の段階では何とも申し上げられない。市内だけを回るバスというのは国や県からの補助対象外になるので、財源との関係も考えなければならない。民間の事業者とも意見交換をしながら最終的な結論、方向付けをさせていただきたい。

松尾数則委員 デマンドタクシーは地域に非常に喜ばれている。これを山野井や埴生に持っていくことも考えられているのか。

芳司産業振興部長 不便地域であればデマンド等々の対応も考えていかなければならない。

山田伸幸委員 市としてデマンドタクシーの運行をどのように考えているのか。

山本商工労働課課長補佐 デマンド型交通を始めて3年目になろうとしている。今のデマンド交通はドア・ツー・ドアということで非常に有利な手法ではないかと思っている。1日当たり20人程度の利用がある。ただし、朝方の早い便がまだ使われていない。まだ始まったばかりなので改善点はあると思うが、順調に推移していると思っている。

山田伸幸委員 一日の乗車密度はどうか。

山本商工労働課課長補佐 多くて七、八人、少なくて一人、二人ということもあるので一律には言えないが、5割程度は乗られているという実感を持っている。

長谷川知司副委員長 デマンド交通の停車場所については、病院に止まれるようになったのか。

山本商工労働課課長補佐 地元の医師会の先生方ともお話をさせていただき、個人病院に停車できると聞いているので、準備を進めている。

長谷川知司副委員長 本山方面に昼間の便がない。宇部市営バスが宇部駅から日赤まで運行しているので、本山まで延ばすことを考えていただきたい。

白石商工労働課長 本山まで延ばすということは初めて聞いたので、検討させていただきたい。

長谷川知司副委員長 J R 雀田駅はポットン便所なので、理科大の学生で利用が多くなったときのことを検討していただきたい。

白石商工労働課長 雀田駅については大学前の玄関であり、小野田線の中でも乗降者数の多い駅なので、検討させていただきたい。

伊藤實委員 そんな悠長な話ではない。早急に J R へ要望していただきたい。

白石商工労働課長 J R のほうに強く要望をしていきたい。

芳司産業振興部長 トイレは絶対不可欠なものである。美祢線、小野田線の利用促進を考えると、市としてもそういった要望はしていかなければならないと思っている。また、関係団体からも声を出していただければと考えている。

山田伸幸委員 雀田駅と本山駅は鉄道マニアもよく来るところなので、観光の面から見てもあのような整備状況ではいけない。

白石商工労働課長 J R 本山線については本市の財産だと思っている。先日宇部市で和歌山県の駅舎を芸術的にアレンジされた方による記念講演、ワークショップ等があったので、商工労働課と観光課の職員全員が参加した。

杉本保喜委員 バスの便が少ないので、生活路線になっていない。もっと地域の人たちの意見をしっかり受けて検討していただきたい。

芳司産業振興部長 御指摘のとおりである。どうしても便数が少なくなってくるので、できるだけ短い路線で考えていきたい。また、バス会

社の運転手が不足しているというのも事実なので、バス会社とも協議をする必要があると思っている。

山田伸幸委員 デマンド型を本山、赤崎方面に走らせたら大幅に増えてくるのではないか。

中村博行委員長 公共交通については本委員会でも重要課題だと捉えているので、今後逐一委員会での説明をお願いするようになるようになるかと思う。

4 その他

【議事の概要】

芳司産業振興部長 山陽小野田市産学官連携推進協議会を7月25日に発足した。4月の山口東京理科大学公立化に伴い、大学を活用し地域貢献につなげていくことは大きなテーマである。そうした中で、大学と産業界との連携というのは極めて重要な課題だと捉えている。産学官連携というのはこれまでも言われ続けていたが、このような組織を作ったのは今回初めてだと思う。資料にはこれまでの取組や経緯を載せている。設置要綱第4条の中で協議会の委員については山陽小野田市長、山口東京理科大学学長、小野田商工会議所会頭、山陽商工会議所会頭という4名で組織することになっている。会議自体は基本的に原則年2回開催する。6ページに今後の取組を4つほど上げている。技術相談や研究連携等々を上げているが、一番大きなものは企業と大学のマッチング、コーディネートだと思っている。大学はいろいろな研究をされているが、それが必ずしも企業のニーズとマッチするわけではないので、間を取り持つ機能が必要となってくる。大学の研究内容を企業に生かせるような形でアレンジしていくことも必要だと思っているので、その間を取り持つ機能をこの協議会で何とか果たしていきたいと考えている。基本的には委員4人の下に幹事会を設けているので、詳細については幹事会の中で進めていきたい。産学官の連携といっても現実的にいろいろな研究を山陽小野田市だけでできるものではない。むしろ日本全体や世界的

なものではないのかという御指摘もあったが、そういった中で企業のニーズといっても、すぐには出ないと思っている。大学と一緒に企業を回る中でそういったニーズの掘り起こしということもしていかなければならないと思っている。それに当たってはまず大学のほうでどのような取組や研究がされているのかをしっかりと企業のほうにお伝えするということが大前提になってくるので、恐らく当面の1年、2年についてはそういった企業への情報提供が中心になってくると思う。そういう中で幾つかお話しを受けながら意見交換や協議ということになると思っている。

【主な質疑】

松尾数則委員 大丈夫かなという気持ちのほうが強い。そのような流れが過去の山口東京理科大学には全然ない。何を持ってこれが可能になると思っているのか。

芳司産業振興部長 時間が掛かる作業になるとは思っている。公立化に際して市長と企業訪問する中でも理科大生の地元定着、採用、更にはインターンシップを積極的に受けていただきたい旨のお願いをしている。卒業後の進路として山陽小野田市内の企業を選択肢に入れていただくためにも、どんどん促進していきたい。

山田伸幸委員 地元企業は山口東京理科大学がどういう研究をしているかということを知らないのではないかと思うので、説明する場が必要だと思う。

芳司産業振興部長 今後の取組として、大学の研究内容のまとめを作成し、企業にお配りしようと考えている。あとは、研究室の開放や技術相談会等も御案内しながら、とにかく接点を作っていくということが大事になってくると思っている。どうしても地方になればなるほど企業にとって大学というのは敷居が高いと言われているので、まずはその辺の周知をしっかりとやっていきたいと考えている。

杉本保喜委員 この産学官の話が出たときに金融機関を加えるという話ではなかったのか。

芳司産業振興部長 産学官金労言というのは去年の地方創生の中でも言わ

れたが、その中で私どもが特にやろうとしているのは産業界との連携である。例えば商工会議所にも産学連携協議会があり、そこに行政も入って一緒にやっていきたいということなので、まずは産学官の連携という形で進めさせていただきたい。

午後 2 時 3 1 分散会

平成 2 8 年 8 月 5 日

産業建設常任委員会委員長 中 村 博 行